

日本特殊教育学会第64回大会自主シンポジウム

小中学校の多様な子供たちへの支援 ～外部資源を活用した支援～

【指定討論】 福島県特別支援教育センター
企画事業部長 瀧本 実加



【 教育相談の状況 】(R6年度 福島県特別支援教育センター)

<年齢・学校別相談件数>

年齢・学校		乳幼児(歳)		小 学 校(学年)						中学校(学年)			高等学校(学年)			一般 他	計
		0～4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3		
センター 相談	実件数	7	6	7	11	7	10	12	6	12	13	9	6	8	4	4	122
	延件数	8	14	22	51	53	47	75	16	68	58	59	18	44	16	5	554

<障がい種別相談件数>

障がい種		視 覚 障がい	聴 覚 障がい	知 的 障がい	肢 体 不自由	病 弱 虚 弱	言 語 障がい	情 緒 障がい	発 達 障がい	その他	計
センター 相談	実件数	1	7	17	4	1	1	0	62	29	122
	延件数	10	21	74	7	2	1	0	320	119	554

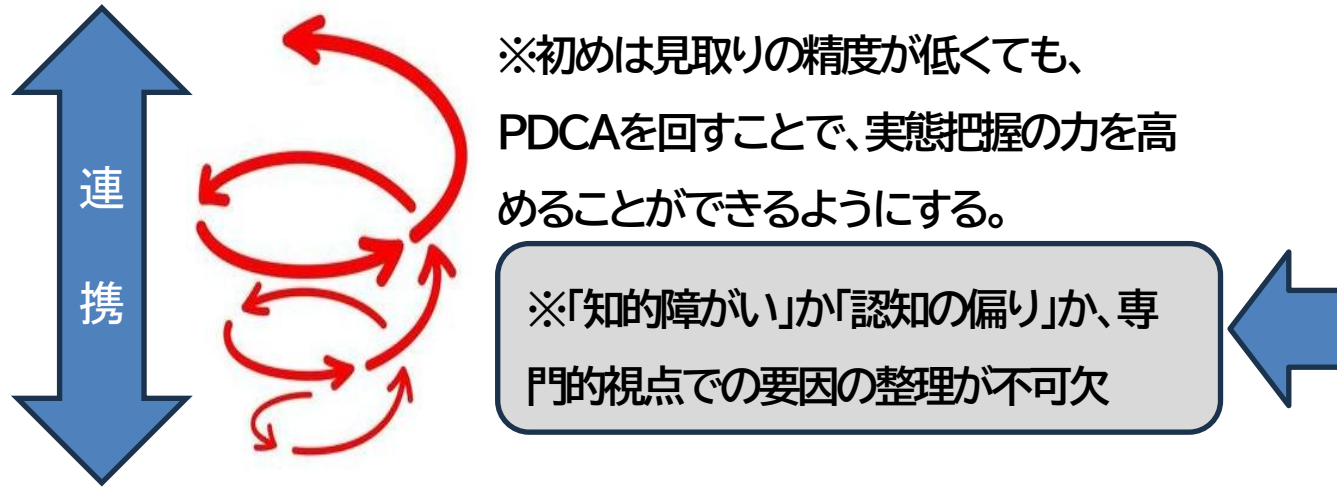
<主な相談内容>

- ・ 小・中学生は、**学校生活・学習面での対応、不登校**に関する相談が多い。
- ・ 在籍校において、**本人の特性等が理解されていない、必要な支援が提供されていないこと**により生じた「登校しぶり」「不登校」に関する相談や、「障がい特性に応じた指導・支援内容の提供」についての相談がある。

【通常の学級における多様な認知の特性をもつ子どもの学習面の困難さや特性の理解】

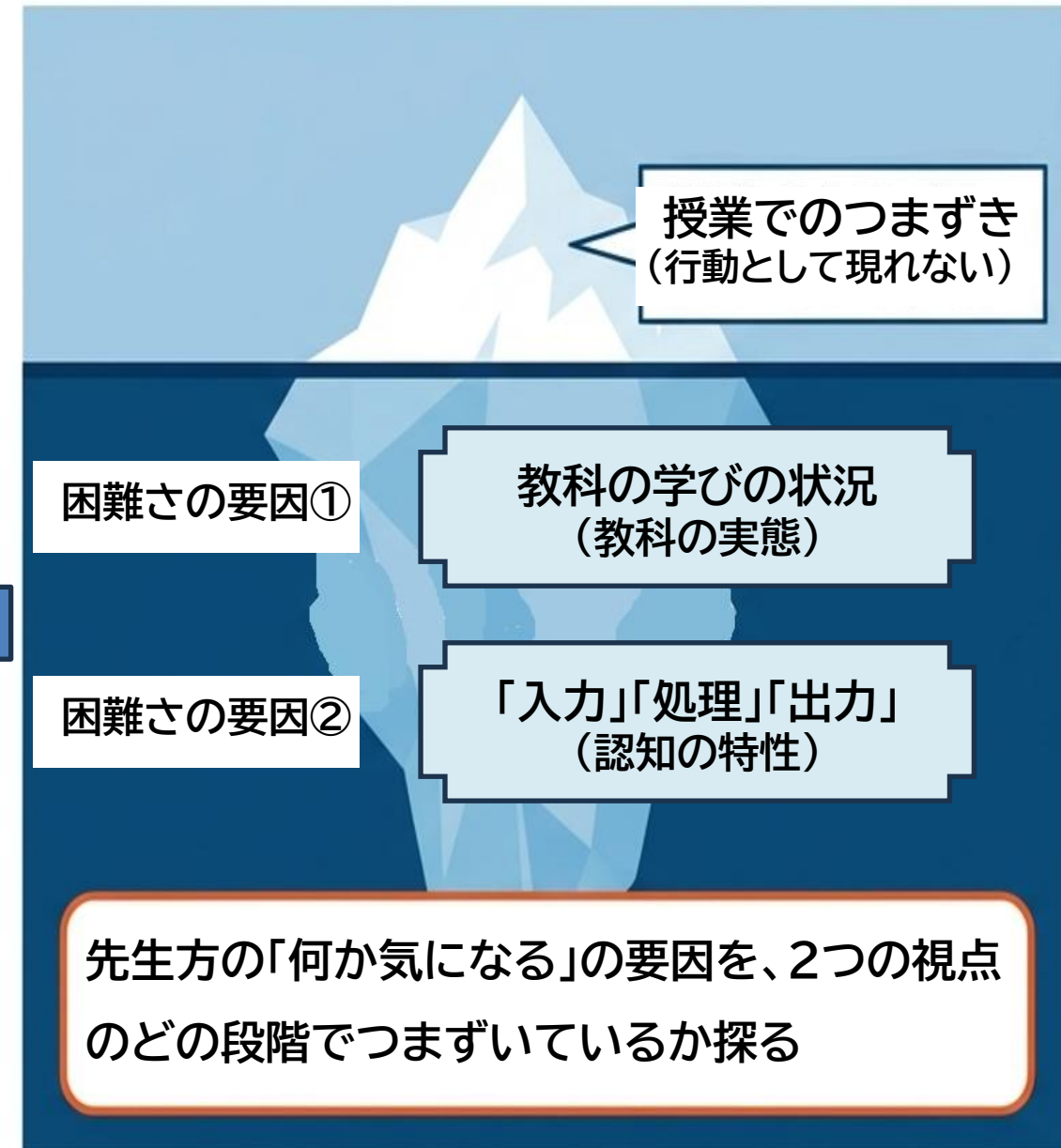
【小・中学校における目指す姿】

「学びの実態」と「認知の特性」を把握し、授業のつまずきを探り整理することができる



【外部機関による支援】

- ・特別支援学校センター的機能等を活用した支援
- ・「学びの実態」と「認知の特性」の把握、授業のつまずきの整理を支援



【認知の特性に応じた個別最適な学びに向けた指導・支援の検討について】

強みを生かす授業デザイン

$$\left[\begin{array}{c} \text{教科の} \\ \text{実態} \end{array} \right] \times \left[\begin{array}{c} \text{認知の} \\ \text{特性} \end{array} \right] = \left[\begin{array}{c} \text{その授業で目指す姿} \\ \text{(引き出したい姿)} \end{array} \right]$$



困難さの要因から強みを生かした「手立て
(指導内容・学習の基盤の指導支援)」
を協働で考え、PDCAを繰り返す。



◎ 小・中学校と特別支援学校地域支援センター等が協働で考え、支援する

◆ 教員・児童生徒の、授業時間内における「多様な学び方」への理解・浸透が課題

【県内の特別支援学校地域支援センター(センター的機能)の主な支援内容】

	対象及び主訴	主な支援内容
A支援学校	・小学校 ・学習面で困難な児童への支援について	●学級担任への助言（教師への支援） ・困難な状況についての把握 ・困難な状況に対する支援方法についての検討 →教室環境の整備 対象児への合理的配慮の検討
B支援学校	・小学校 ・学習面、行動面で課題のある児童の理解について	●学校全体(全教職員)への研修支援（研修協力） ・発達障がいの特性理解 ・学習面、行動面における課題の背景要因の理解 ・主な支援方法について
C支援学校	・中学校 ・学習面で課題があり、欠席がちな生徒への支援について	●対象生徒に関する事例検討会実施への支援（教師への支援） ・学習面、生活状況等の実態及び課題の整理 ・必要となる支援内容・方法の検討 ・具体的な支援場面、支援方法、支援者の確認

【本県の特別支援学校のセンター的機能の活用に関する状況】

(文科省:令和7年度特別支援教育体制整備状況調査結果より)

■ 特別支援学校のセンター的機能による支援を受けている割合

- ・ 小学校 49.9% (全体 68.0%)
- ・ 中学校 47.8% (全体 64.9%)

→ 特別支援学校のセンター的機能の活用状況が低い



小・中学校の多様な子どもたちへの支援を行うなかで、

Q **小・中学校(校内組織・体制)**に、もたらしている**効果と課題**は何か？

(役割の調整・分担、支援内容・結果の共有、教職員の専門性 等)

Q **特別支援学校のセンター的機能**に、外部資源として**期待すること**は何か？